Vol.169 2017.12.14

理事長トーク Top Interview

2017年を振り返って

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男

今回の理事長トークでは、いくつかの視点から、今年2017年を振り返ってみたいと思います。

1. 新病院の開院 / 新施設の開設
2. 外国人スタッフの活躍
3. ご家族向けサービスの充実
4. 外部学会における発表の質の向上

1. 新病院の開院 / 新施設の開設

今年は、4月に「大泉学園複合施設 ねりま健育会病院／介護老人保健施設ライフサポートねりま」が、そして11月には「湘南慶育病院」が開院いたしました。病床数は介護施設と合わせて410増えて約2,300ベッドに。また常勤職員数も455名増えて3282名となりました。1年でこれだけの仲間を新しく迎えることができ、大変嬉しいと同時に重い責任を感じています。

大泉学園複合施設
ねりま健育会病院・介護老人保健施設 ライフサポートねりま

2017年4月1日より開院した大泉学園複合施設は、2018年3月末までに満床になることを目指しており、現在では回復期が約75%、老健が約70%と順調に運営されています。

患者さんを紹介していただいている先生方からは、ねりま健育会病院については「一生懸命に、大変な患者さんも診てくれる」「送った後、患者さんが元気になって戻ってくる」「全身管理がきちんとできている」という信頼を、またライフサポートねりまについては「ご利用者が元気になって戻っていく姿」から地域のケアマネさん達の「あそこは頼りになる」という評判をいただいており、それが入院／入所につながっており、大変有難いことだと感じています。

一方、開院当初の想像を上回るほど練馬区や地域の皆様の協力も得られており、多くの方が病院の見学に訪れています。また、退院した患者さんがその人らしく快適に地域で生活しているかを調査するシステムも稼働させており、練馬区と一体となった「病気や障害があっても社会参加しやすい街づくり」に向けても一歩一歩前進しているようです。

課題は人材の確保と教育です。特に教育については、開院して1年未満ということで、「全ての人間がスペシャリストである」という状態にはまだなりきれていません。今年度末に向けて、職員が「成長を実感できる職場」「働くことにプライドを持てる職場」を目指し、人材育成に向けて戦略的に取り組むことが重要です。そのような中、病院では、管理職が講師を担って毎週月曜に勉強会を開くなど積極的な取り組みも行われており、今後の成長に期待しています。

院内勉強会の様子

湘南慶育病院

湘南慶育病院は、2017年11月4日に開院式を終え2017年11月6日より診療を開始しました。外来は13の診療科をオープンしており、多い日は100名を超える患者さんが外来にいらしています。

タブレットのi-padを使ったクラウド型問診システムは初日から稼働しています。これは通常は初診時に紙に書いて提出いただく問診票について、患者さん自身にi-padを使ってご入力いただくことで、即座に担当医が患者さんの情報や症状を確認できるシステムです。当初は、職員も不慣れなところもあり、患者さんへの説明や入力に時間がかかっていましたが、現在では順調に運用しています。

病棟は当初の予定通り、3病棟130床をオープンしており、地域の病院や診療所、介護施設からの紹介も徐々に増えてきています。今月は眼科、消化器外科の手術も施行されました。整形外科での手術も予定しており、病院の診療機能が充実してきました。

また、「地域の皆様と診療する医師の顔が見える関係づくり」をめざして定期的に市民公開講座を開催することにいたしました。診療開始からちょうど1か月が経過した12月5日には、地域の皆様を対象に第1回目の市民公開講座を開催しました。鍼灸外来の鳥海先生による「ツボを活用した転倒予防」をテーマに実技も交え1時間の講座をおこない、想定以上となる約200名の方に参加いただきました。

第一回市民公開講座の様子

12月18日・25日には眼科　久保田医師による市民公開講座を開催予定で、さらに年明けには整形外科、消化器外科、リハビリテーション、神経内科の各医師による講座も予定しています。市民公開講座では、各診療科の医師が専門領域の病気や治療について分かりやすく話をしていく予定です。

2. 外国人スタッフの活躍

健育会グループでは、以前よりアジアからの看護師候補・介護士候補の受け入れに積極的に取り組んでいます。

現在、EPA制度において、フィリピンとインドネシアからの15名が勤務中です。その内訳は、看護師3名／介護福祉士4名がすでに有資格者として健育会グループ内で勤務中、また8名が資格取得に向けて勉強しながら勤務中となっています。

また、理事長トークvol.156においてもご紹介しましたが、今年4月には中国人看護師7名が、中国人看護師プロジェクト第1期生として入職しました。これにより、健育会グループ全体では23名の外国人看護師、EPA介護福祉士が働いています。加えて現在、健育会グループへの入職を前提に7名の中国人看護師の皆さんが看護師国家試験に向けて勉強中となっており、無事合格した暁には、グループの病院で来年4月から働き始める予定です。

EPA・外国人看護師	熱川・西伊豆 中国	竹川・花川 フィリピン
資格取得し勤務中	6	3
看護師国家試験の勉強をしながらケアワーカーとして勤務中		4
日本語を勉強しながら、けやき・ひなたで勤務中（国家試験合格後病院へ入職）	2	

EPA介護福祉士	ケアポート板橋・オアシス21 フィリピン・インドネシア
資格取得し勤務中	4
介護福祉士国家試験の勉強をしながらケアワーカーとして勤務中	4

今年4月に入職した中国人看護師は、皆さん明るく勉強熱心で仕事もしっかりと覚えてきており、現在は日本人の先輩看護師の元で夜勤の見習いを始めています。また今年も本部の幹部が中国に行き、現地で入職希望者と面接を行いましたが、現在働いている皆さんの活躍が中国の出身看護学校や日本語学校に伝わっていることもあり、前回を上回る24名の応募があったとのことです。

以下は、西伊豆健育会病院、熱川温泉病院へ入職した中国人看護師の感想です。

西伊豆健育会病院で働く看護師の半年間働いた感想

4月から西伊豆健育会病院で働きはじめ半年になりました。最初は仕事の内容がよくわからず戸惑ったこともありましたが、プリセプターや先輩の看護師が親切に教えてくれ、今のところ悩んでいることはありません。病院では仕事上のことだけではなく、生活上など色々な場面でフォローしてくれています。今はやれる事も段々増えてきて、楽しさを感じています。

熱川温泉病院で働く看護師の半年間働いた感想

入職して、北海道で接遇の研修がありました。病院では新入職のオリエンテーションがあり、看護部ではオンデマンドや研修で講義を受け、技術・知識が身に付きました。現場でもパートナーやスタッフの皆さんから優しく、丁寧に様々な事を教わり実践できる業務が日々増えていき、とても充実しています。

また今年の12月9日には、本部主催でEPA懇親会を開催しました。EPAメンバー13名、その施設の管理者5名、本部4名の合計22名が集まり、情報共有や食事会を行いました。これまで一堂に会する機会はなかったので貴重な交流の場となったようです。

2017年12月9日　EPA懇談会

2016年11月の第192回臨時国会において外国人技能実習生の対象職種に「介護」が追加され、また、外国人の在留資格に「介護」を新設する出入国管理及び難民認定法（入管法）の改正法案が可決されました。これにより、介護施設や病院では、外国人の方が介護職として働けるようになり、介護士不足の解消の一助になるのではないかと期待されています。

健育会グループでは、この法案可決を見越して、2015年からミャンマーやベトナムを訪問して現地の状況を視察する等、準備を進めてきました。受け入れにあたっての規定や条件については、現在、国で検討されていますので、詳細が決まり次第受け入れを始めていく予定です。

ミャンマー視察にて

医療や看護・介護を通じて、健育会グループが日本と外国の橋渡し役としての役割を担うことができることは嬉しいことです。これからも引き続き海外からの医療従事者の受け入れに積極的に取り組んで行きたいと考えています。

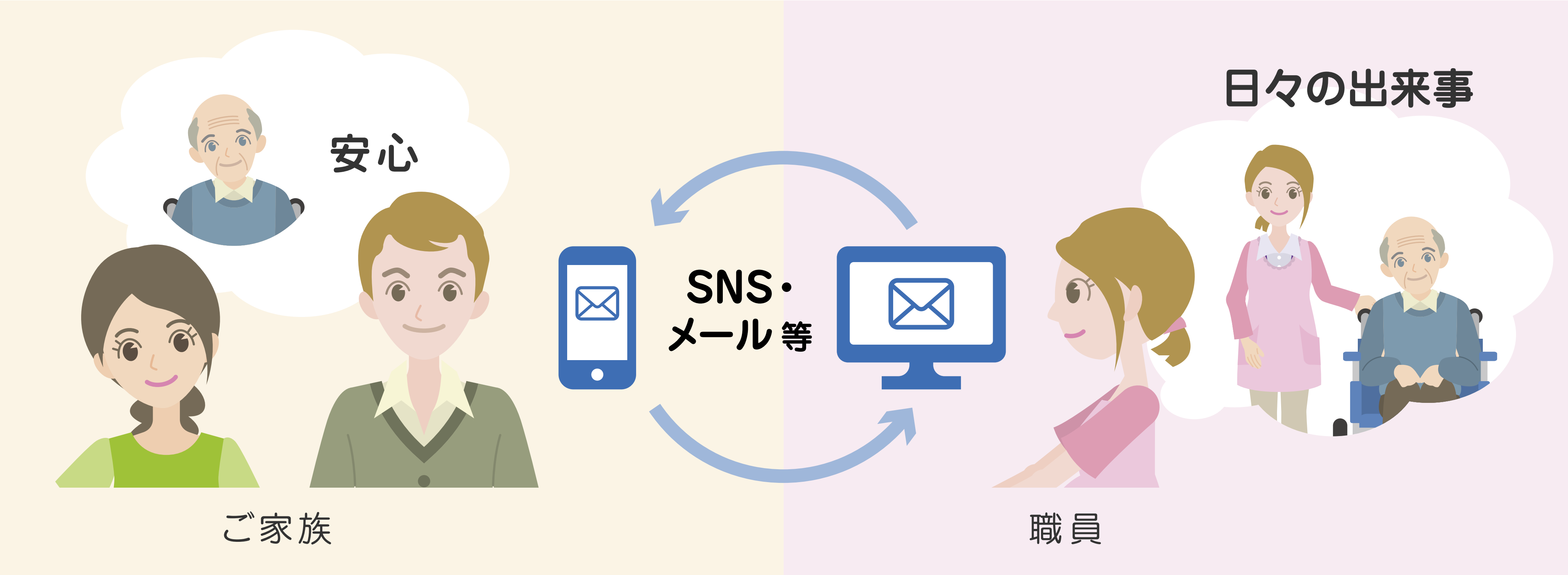
3. ご家族向けサービスの充実

今年11月より入院・入所中の普段の生活のご様子をきめ細かくご家族にお伝するサービスとして、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下、SNS）やメールを使って患者さん・ご利用者の日々の様子をお伝えしていく「ご家族向けサービス」を開始しました。

運用は順調に行われており、ご利用いただいているご家族からは、どの病院・施設においても、大変好評です。

ご家族にご安心いただくことを第一の目的に始めたサービスになりますが、例えば患者さん・ご利用者に、ご家族にメールを入れた旨をお伝えすると、ご本人のモチベーションが上がり、さらにリハビリに励まれるような場面も出てきており、このサービスによる好循環が生まれてきていることを感じています。

健育会グループでは、チーム医療を大切にしていますが、そのチーム医療では「患者さん自身」や「ご家族」もチームのメンバーであると考えています。新しいサービスが副次的な効果として、コミュニケーションを深める良いツールとなっていることは嬉しいことです。



4. 外部学会における発表の質の向上

健育会グループでは年間を通して研究や勉強会が積極的に行われており、グループ内でもセミナーを開催し、活発な議論が行われています。

今年、1年間の外部学会への参加数を表に示しましたが、発表演題数が最も多かったのは花川病院でした。また、4月に開院したねりま健育会病院も医局5演題／リハビリ9演題の14演題を発表し健闘しています。日々の忙しい業務の中、これだけ沢山の学会で演題を発表したことは大変素晴らしく、職員のみなさんがすごく頑張ったと感じています。

■ 2017年外部学会演題数（2017年1月～12月）

施設名	医局	看護部門	リハ部門	コメディカル部門	介護部門	事務部門	合計
竹川病院	0	4	14	0	0	0	18
熱川温泉病院	0	1	5	1	0	0	7
西伊豆健育会病院	1	2	1	1	0	0	5
石巻健育会病院	0	5	8	0	0	0	13
いわき湯本病院	0	5	2	0	0	0	7
花川病院	1	3	23	1	1※1	3	31
石川島記念病院	1	1	1	3	0	0	6
ねりま健育会病院	5	0	9	0	0	0	14
茅ヶ崎セントラルクリニック	0	0	0	0	0	0	0
ライフケアガーデン熱川	0	1	0	0	0	0	1
ライフケアガーデン湘南	0	0	0	0	0	0	0
介護老人保健施設 しおさい	0	0	0	0	1	0	1
特別養護老人ホーム ケアポート板橋	0	0	0	0	2	0	2
ケアセンターけやき	0	0	1	0	0	0	1
ひまわり在宅サポートグループ	0	1	1	0	0	0	2
介護老人保健施設 しおん	0	0	1	0	0	0	1
喬成会	0	0	0	0	2	0	2
介護老人保健施設 ライフサポートひなた	0	0	2	0	0	0	2
介護老人保健施設 ライフサポートねりま	0	0	0	0	0	0	0
合　計	8	23	68	6	5	3	113

※1 介護職員発表は、看護に計上（再掲）

また、一般社団法人医療のTQM推進協議会主催で2017年11月17/18日に行われた『第19回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in松山』において、花川病院、石巻健育会病院、竹川病院、ケアポート板橋が優秀賞に選ばれました。石巻健育会病院は、昨年行われた同全国大会でも選ばれており、2年連続の入賞となりました。

第19回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in松山

優秀賞

- ◆ **花川病院**　FIM一致工場　病棟生活におけるFIM向上を目指して
- ◆ **石巻健育会病院**　グッドタイミング　療養病床における指衛生遵守率の向上
- ◆ **竹川病院**　カクタンGO 吸引ができるセラピストの育成システムの構築
- ◆ **ケアポート板橋**　HAPPY FEET　介護現場におけるフットケアの充実

発表の様子（花川病院）

優秀賞を受賞した全国の病院施設　発表者記念撮影

健育会グループで開催しているTQM活動発表セミナーも今年で11回目となり、グループ全体として内容やレベルが向上してきていると実感していましたが、このように外部の学会において４つの病院施設が優秀賞を受賞し、いよいよその思いは確信に変わりました。再来年行われる「第21回フォーラム 医療の改善活動 全国大会」は、石巻健育会病院を幹事病院として仙台で開催されます。滞りない運営のために準備を進めると共に、さらなる活動のレベルアップを図って欲しいと思います。

このような学会発表などを通じて、医療・介護の発展に貢献していくという文化が、健育会グループにしっかり根付いてきたと感じています。日々の研究は必ず日常業務の質の向上に結びつきます。これからも研究活動に取り組み、グループ内で切磋琢磨することを通じて、社会に貢献してゆければと考えています。

今年は２つの病院、１つの施設を開設して新たにたくさんの入職者を迎えました。2018年はグループの結束をさらに高めていく一年になると思います。全職員で一丸となって前進し、さらなる飛躍を目指しましょう。